

イネ科通信 48

メリケンカルカヤ

農耕地の荒れ地などに帰化する多年草、稈(茎)は多数が束になって基部から直立、高さ 50～120cm、結実する頃は葉と共に赤褐色を帯びるので、遠くからでもわかります。葉身は長さ 10～30cm、幅 2～5mm、中央脈にそって 2 つ折りとなり、多くは稈に沿って直立します。葉鞘は扁平、背部が竜骨となり、下方のものは互いに基部で抱きあいます。稈の上半部の葉は葉身が退化、葉鞘は長さ数 cm の抱葉となり、2～数本の総を包みます。総は長さ 2～3cm、軸には白色の長毛が生えます。(以上は『日本イネ科植物図譜』平凡社、長田武正著より引用しました) 下の写真は秋になるとよく見られるメリケンカルカヤの群落です。白い長毛の塊の中にメリケン

カルカヤの穎果(果実)が見えます(写真 1)。この部分を拡大してみると白い長毛が多数見られますが、その中でも特に目立つ長毛をたどっていくと穎果(果実)にたどり着きます。即ち、この長

毛は芒であることが解かります。

(写真 2) このメリケンカルカヤの穎果の 1 部を拡大したものが(写真 3)です。比較のためのススキの穎果の写真は 4 です。メリケンカルカヤもススキも包穎の一方は退化しているので芒は 1 本だけです。

(注) 写真 3 には 2 小花が写っています。それぞれの小花に芒は 1 本だけです。

